

# 平成29年度 道徳教育振興だより

滋賀の子どもたちにこころの元気を



教科化に向けた道徳教育の充実

中学校  
H31年度

全面実施

小学校  
H30年度

平成30年3月 滋賀県教育委員会

# 刊行に寄せて

滋賀県教育委員会事務局 幼小中教育課長 西嶋 良年

新学習指導要領が、平成29年3月に告示されました。

小・中学校学習指導要領の前文には、「教育課程を通して、これからの時代に求められる教育を実現していくためには、よりよい学校教育を通してよりよい社会を創るという理念を学校と社会とが共有し、それぞれの学校において、必要な学習内容をどのように学び、どのような資質・能力を身に付けられるようにするのかを教育課程において明確にしながら、社会との連携及び協働によりその実現を図っていくという、社会に開かれた教育課程の実現が重要になる」とされています。

この理念は、従来より、各学校で道徳教育を推進する上で重要視してきたことです。県では、平成19年度より、「心の学舎推進プラン」を策定し、各学校において、道徳の時間の授業研究会・道徳教育についての研修会・道徳の授業公開等の実践を重ねてきました。今年度より、新たに「心の元気 さんさんプラン」として、引き続き「社会に開かれた」道徳教育の推進に御尽力いただいていることと思えます。

新学習指導要領に示された資質・能力の三つの柱をバランスよく育ていくためには、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が必要となります。道徳科においては、「考え、議論する道徳」への転換を目指すことが、道徳科の特質に応じた「主体的・対話的で深い学び」を実現することにつながります。

平成28年7月22日に出された道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議の報告には、道徳科における質の高い多様な指導方法として、

○読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習

○問題解決的な学習

○道徳的行為に関する体験的な学習

が示されました。しかし、これらはいくまでも例示であり、それぞれが独立した指導の型を示しているわけでもありません。重要なことは、指導にあたって、指導者が学校の実態や児童生徒の実態を踏まえ、授業の主題やねらいに応じた適切な指導方法を選択すること、そして、工夫することが求められているということです。

本冊子は、「平成29年度道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業」の推進校における実践を掲載しています。いずれの実践も、新学習指導要領の理念を踏まえ、「特別の教科 道徳」の方向性を見据えながら子どもたちの実態に応じて創意工夫されたものです。ここに挙げた事例を参考にしながら、各学校において組織的な道徳教育、「考え、議論する道徳」の実現に向けた授業実践を進めていただきたいと思います。

また、本冊子の事例を、学校はもとより、家庭、地域社会における道徳教育で御活用いただければ幸いです。学校が、家庭や地域社会との連携をより密にすることで、子どもたちの道徳性が一層豊かに育まれるよう、期待しています。

## 目 次

□刊行に寄せて	幼小中教育課長	西嶋 良年
●Take it easy (肩の力を抜きましょう)	滋賀県道徳教育推進協議会	会長 押谷 由夫 …1
●教科化に向けた道徳教育の目標や改善の方向性		4
●道徳教育の多様な展開		5
●道徳教育の取組例		
・近江八幡市立八幡幼稚園 「道徳性の芽生えを育む工夫」		6
・草津市立洪川小学校 「各教科等と関連をもたせた指導」		7
・多賀町立多賀小学校 「道徳教育推進教師を中心とした指導体制の充実」		8
・湖南市立菩提寺小学校 「ねらいに応じた多様な指導方法の工夫」		9
・多賀町立多賀中学校 「ねらいに応じた多様な指導方法の工夫」		10
・湖南市立日枝中学校 「生徒の発達や個に応じた指導の工夫」		11
・草津市立老上中学校 「生徒の内面的な自覚を促す指導の工夫」		12
・滋賀県立大津高等学校 「生徒が人間としての在り方生き方を主体的に探究する指導の工夫」		13
●自分への思いを深める「特別の教科 道徳」の在り方(滋賀県小・中学校教育研究会道徳部会)		14・15
●学校・家庭・地域社会で豊かな心を育む(道徳教育推進協議会)		16
●資料1 教科化に向けた学校の取組		17
資料2 道徳教育の全体計画の別葉		18
資料3 道徳科の評価について		19
資料4 滋賀県道徳教材「近江の心」		20
□学習指導要領による道徳教育－推進体制チェックポイント18－		21

# Take it easy

(肩の力を抜きましょう)

「特別の教科 道徳」が始まります

「よし、がんばろう」

「少し不安だ」

「どうしよう」

思いは様々かと思えます

でも、子どもたちに接する姿勢は

‘Take it easy’ です

肩の力を抜いて

心にゆとりをもって

子どもたちと、授業を楽しみましょう

道徳教育は一人一人の幸せを追い求めるものです

楽しいと思える場

笑顔が自然とこぼれる場

一緒に過ごせてよかったと思える場

それが大切です

夢を大いに語り合おう

一人一人のよさを引き出し伸ばしてあげよう

このような思いをもつことは、大切です

でも、肩に力が入りすぎると

子どもたちは、その場がしんどくなります

不安が募り、自信がもてない

いろんなことがあり、イライラする

あって当然です

でも、不安感やイライラ感が表に出てしまうと

子どもたちは、その場が落ち着かなくなります

道徳教育は、心と心の対話がベースです

教師も子どもたちも、肩の力を抜いて

自分を語り合えるようにするので

‘Take it easy’

子どもたちと一緒に道徳の授業を楽しみましょう

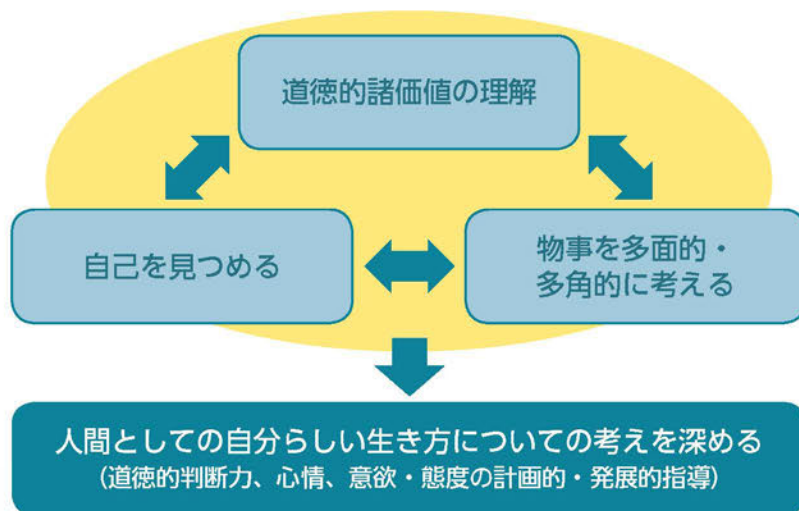
# 「特別の教科 道徳」の多様な 学習指導過程の工夫

— 3つのキー・ワードを多様に組み立てましょう —

多様な指導過程については、いろんな提案がなされています。それらは、全部意味があります。大いに学んでほしいのですが、ここでは基本的な押さえをしてみたいと思います。「特別の教科 道徳」の目標にある3つのキー・ワード（道徳的価値の理解、自己をみつめる、物事を多面的多角的に考える）をうまく絡めながら、多様に授業を組み立てるのです。

## 1 「特別の教科 道徳」の目標の確認

道徳教育の要である「特別の教科 道徳」の目標は、「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己をみつめ、物事を（広い視野から）多面的・多角的に考え、自己の生き方（人間としての生き方）についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる」（（ ）は中学校）となっています。それを図示すると次のようになります。



## 2 三つのキー・ワードを多様に組み立てる

「特別の教科 道徳」の目標には、授業の展開にかかわる3つのキー・ワードが記されています。道徳的価値の理解、自己をみつめる、物事を多面的多角的に考える、の三つです。基本的には、これらの三つのキー・ワードをうまく絡めながら、多様に授業を組み立てることになります。

- 例えば
- ① 自己をみつめる 1 → 道徳的価値の理解 1 → 物事を多面的・多角的に考える 1 → 道徳的価値の理解 2 → 自己をみつめる 2 → 物事を多面的多角的に考える 2 ……
  - ② 道徳的価値の理解 1 → 物事を多面的・多角的に考える 1 → 道徳的価値の理解 2 → 自己をみつめる → 物事を多面的・多角的に考える 2 ……
  - ③ 物事を多面的・多角的に考える 1 → 道徳的価値の理解 1 → 物事を多面的・多角的に考える 2 → 道徳的価値の理解 2 → 自己をみつめる ……

等々。

それぞれの2はより深めることを意味します。なお「自己を見つめる」も「自分たちを見つめる→自分を見つめる」といった方法も考えていく必要があります。また、これらの三つの組み合わせを事前や事後も含めて、また2時間続けての授業、他の教科等と連携した授業などにおいても考えていくことが求められます。

例えば、①で説明しますと、「親切にされて嬉しいと思いましたか」と問いかける。すると自分の今までを振り返ります。自己を「見つめる」の1になります。いろいろ出してもらいながら、「そうね、じゃ思いやりってどう考えたらいいのかな、親切にするということはどういうことなのかな」と、問いかけ課題意識を持たせようとします。それは、「道徳価値の理解」の最初の段階1です。

では、そのことについて、「今日は、この教材から考えてみましょう」という形で、教材に描かれている道徳的事象・状況について、多様に考えられるようにします。それが「物事を多面的・多角的に考える」となります。

そこで出てきた意見を整理することによって「道徳的価値の理解」を深めていきます。それが「道徳的価値の理解2」となります。子どもたちの意見はどれも価値があるととらえ整理していく。整理することによって、ねらいにかかわる道徳的価値に関して、理解を深めていきます。

そこから自分自身を見つめてみる。今日の学習でこういうことが大切だと発見した、改めて確認した、ということも「自己を見つめる」ことになります。

そこで終わるわけではありません。さらに、自己課題を見出して、事後に追い求めようとする意欲を培っていくことになります。それは、日常生活における様々な道徳的事象や状況において「物事を多面的・多角的に考える」ということになります。

つまり、授業を離れて日常生活でのいろんな場面において、自分の対応の仕方をしっかり考えるように発展させていくのです。

さらに②で説明しますと、まず、「思いやりってなんだろう」と問いかけてみます。「道徳的価値の理解1」です。そこから、教材を提示し、「思いやりについて深く考えてみよう」となります。これが「物事を多面的・多角的に考える」ということになります。

そこから意見を整理し「道徳的価値の理解」を深めます。そして「自分を見つめ」ます。さらに、自己課題を見出し事後へとつなげていきます（「物事を多面的・多角的に考える」）。

要するに、三つのキー・ワードをどういう状況で考え結びつけていくかを基本に考えることで、道徳の授業が深まっています。

この三つのキー・ワードを道徳の授業だけで考えるのではなくて、事前、事後とか、各教科や特別活動とか、総合的な学習の時間もひっくるめて、サイクル的に考えることが求められます。そのことによって、道徳の授業がパターン化することを防ぐと同時に、道徳の授業の効果を、全教育活動や日常生活の中に、より反映されていくようになります。

道徳教育には「心にゆとり」をもつことが大切です。そして、道徳教育の要である「特別の教科 道徳」の授業においては、心と心の対話がベースになります。道徳的価値のとらえ方において、自己を見つめることにおいて、道徳的な事象や状況を多様に考えることにおいて、心を通わし、先生と子どもたちの、子どもたち同士の、さらに保護者等も交えて、心と心の対話を広げ深めていくのです。

先生も子どもたちも、肩の力を抜いて、自分を語り合えるようにしましょう。そして、子どもたちと一緒に道徳の授業を楽しみましょう。

# 教科化に向けた道徳教育の目標や改善の方向性

## 道徳教育の目標

### 小 学校

道徳教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことを目標とすること。

(小学校学習指導要領 第1章 総則 第1の2の(2))

### 中 学校

道徳教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、人間としての生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことを目標とすること。

(中学校学習指導要領 第1章 総則 第1の2の(2))

## 特別の教科 道徳の目標

### 小 学校

第1章総則の第1の2の(2)に示す道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

(小学校学習指導要領 第3章 特別の教科 道徳 第1)

### 中 学校

第1章総則の第1の2の(2)に示す道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

(中学校学習指導要領 第3章 特別の教科 道徳 第1)

## 道徳教育の改善の方向性 学習指導要領等の改正のポイント

- ◆学校教育法施行規則において、道徳の時間を「特別の教科 道徳」として位置付けた。  
学習指導要領において、学校教育全体としての道徳教育に関することは「第1章 総則」に、「特別の教科 道徳」に関することは「第3章 特別の教科 道徳」へと構造化した。
- ◆学校教育全体としての道徳教育の目標は、児童生徒の道徳性を養うという趣旨を、道徳科の目標は、育成すべき資質・能力を明確化した。
- ◆内容について、
  - ・「自分自身」「人との関わり」「集団や社会との関わり」「生命や自然、崇高なものとの関わり」の視点により、構造化・体系化
  - ・内容項目に応じたキーワード
  - ・いじめの問題への対応を充実などの改善が図られた。
- ◆指導方法の配慮事項として、問題解決的な学習、体験的な学習などの指導方法の工夫のほか、情報モラル、環境、科学技術と生命倫理等に関する事柄を追加し、指導の充実を求めている。
- ◆教材については、教育基本法や学校教育法等に従い、発達の段階に即し、特定の見方や考え方に偏った取扱いがなされていないことなどの配慮事項を明記した。
- ◆評価については、児童生徒の成長の様子を把握することが基本。数値評価を行わないことは従前と同様。
- ◆道徳の全体計画や教育活動等の公表など、家庭や地域社会との連携を重視する。

**「考え、議論する」道徳科への転換により児童生徒の道徳性を育む**  
小学校は平成30年度、中学校は平成31年度から、検定教科書を導入して「道徳科」を実施

# 道徳教育の多様な展開



道徳教育の推進、道徳授業の充実に取り組んでいく上で、下に示す内容が重要なポイントになります。

1

## 道徳性の芽生えを育む工夫

道徳性の芽生えを培うにあたっては、幼児が他の幼児とのかかわりの中で他人の存在に気づき、相手を尊重する気持ちをもって行動することができるようにすること、特に人に対する信頼感や思いやりの気持ちは、葛藤やつまずきを体験し、それらを乗り越えることで次第に芽生えてくることに配慮することが大切です。

## 実践1

近江八幡市立八幡幼稚園  
の取組を紹介します。  
(詳しくは6ページ)

2

## 各教科等と関連をもたせた指導

各教科等と道徳科の指導のねらいが同じ方向であるとき、学習の時期を考慮したり、相互に関連を図ったりして指導を進めると、指導の効果を一層高めることができます。その際、各教科等と道徳科それぞれの特徴が生かされた関連となるように配慮することが大切です。

## 実践2

草津市立渋川小学校  
の取組を紹介します。  
(詳しくは7ページ)

3

## 道徳教育推進教師を中心とした指導体制の充実

道徳の時間の指導を計画的に推進し、授業を魅力的なものとして効果を上げるためには、校長の方針のもとに学校の全教師が協力しながら取組を進めていくことが大切です。道徳教育推進教師を中心とした指導体制の充実を図り、他の教師との協力的指導、保護者や地域の人々の参加や協力などが得られるよう工夫することが大切です。

## 実践3

多賀町立多賀小学校  
の取組を紹介します。  
(詳しくは8ページ)

4

## ねらいに応じた多様な指導方法の工夫

道徳科の指導方法の工夫の視点としては、教材提示、発問、話し合い、書く活動、役割演技等の表現活動、板書、説話等が挙げられます。教師自らが多様な指導方法を理解したり、コンピュータを含む多様な機器の活用方法などを身に付けたりしておくとともに、児童生徒の発達段階を捉え、指導方法を吟味した上で生かすことが大切です。

## 実践4

湖南市立菩提寺小学校  
多賀町立多賀中学校  
の取組を紹介します。  
(詳しくは9・10ページ)

5

## 生徒の発達や個に応じた指導の工夫

児童生徒には、年齢相応の発達の段階があるととともに、個人差も大きいことに留意し、一人ひとりの考え方や感じ方を大切にした授業展開を工夫することで、児童生徒が現在の自分の在り方や今後の生き方を積極的に考えられるようにすることが求められます。

## 実践5

湖南市立日枝中学校  
の取組を紹介します。  
(詳しくは11ページ)

6

## 生徒の内面的な自覚を促す指導方法の工夫

道徳の時間の指導の目指すものは、個々の道徳的行為や日常生活の問題処理に終わるものではなく、児童生徒自らが時と場に応じて望ましい行動がとれるような内面的資質を高めることにあります。そのため、児童生徒が道徳的価値を自覚できるよう指導方法の工夫に努めることが大切です。

## 実践6

草津市立老上中学校  
の取組を紹介します。  
(詳しくは12ページ)

7

## 生徒が人間としての在り方生き方を主体的に探究する指導の工夫

人間としての在り方生き方に関する教育は、学校の教育活動全体を通じて各教科・科目、総合的な学習の時間及び特別活動のそれぞれの特徴に応じて実施するものです。特に公民科や特別活動等を中核的な指導の場面として重視し、道徳教育の目標全体を踏まえた指導を行うことが大切です。

## 実践7

滋賀県立大津高等学校  
の取組を紹介します。  
(詳しくは13ページ)

# 道徳性の芽生えを育む工夫

近江八幡市立八幡幼稚園 <http://www.city.omihachiman.shiga.jp>

幼児期における道徳性の芽生えは、幼児が家庭や幼稚園などで人々と共に生活し、人と関わる中で培われていく。幼稚園では、幼児は教師との温かい関係を基盤とし、生活や遊びの中で自分や相手の気持ちに気づいたり、やっていいことやいけないことを知ったりする。また、遊びの中で友達と楽しく遊ぶためにはルールがあることや、ルールを守ることで楽しく遊べることに気付く。このように幼児期は遊びの中で心を動かしながら学び、教師が幼児の姿の理解を深めながら、保護者と連携して取り組んでいくことで、心を育んでいきたいと願っている。

5歳児9月

## 次は一人で走るからね



走るのが好きなA児。しかし勝ち負けを意識するようになり、自分のチームが遅くなると緊張し走れなくなってしまった。

T「一人で走るのドキドキするの？」

A児「うん。」

まわりでB児はやりとりを聞いている。

T「一人ならドキドキするから、先生と一緒に走る？」しばらく考えている。

A児「うん。」

A児は、じっと教師の目を見ている。

友だちからバトンがパスされて、A児は走りきって、バトンを渡す。

B児「Aちゃん、めっちゃ頑張って走ったな。」

A児はB児に認められて表情が柔らかくなった。A児は、Tのところまで走ってきて、耳元で、「次は一人で走るからね！」とつぶやく。

\*教師に気持ちを受け止められ、気持ちを共感してもらうことで、自分で頑張ってみようと心を動かした。

\*B児は、友だちの気持ちに気づき、相手の気持ちに共感した。

## 同じ気持ちだよ！

リレー遊びで、同じグループが何回も繰り返し負けて、悔しさのあまり泣けて座り込むC児。そばにじっと寄り添うD児。何を話すわけではないけれどC児が泣きやむまでそばにじっと寄り添っていた。



\*共に生活をし、遊びを繰り返す中で、友だちの悔しい思いに気づく。

## 子ども達の思いに共感する

～運動会後の保護者の感想より～

我が子のクラスは、運動会のリレーで勝つことができなかった。練習の時も悔しい思いをいっぱいしたようだった。どうしたら勝てるのか何度もクラスで考えたようだった。その過程がとても大切だと思った。その過程を何度もクラスだよりで丁寧に伝えていただいたことで、子どもの思いがとてもよく理解できた。仲間意識が高まっていく様子も感じられた。この悔しい経験が、子ども達にとって大切なものだと感じ、子ども達の心の成長を親としてうれしく思った。

## 成果と課題

○幼児は集団生活の中で、遊びを通して様々な心の動きを経験する。自分の体験から感じた気持ちを、友だちの姿に重ね、「同じ気持ちだよ。」「悲しいときはそっとしておこう。」など他者にどの様に接していくと相手も心地いいか、うれしいか自分自身で感じていく様子が見られた。さらに遊びの中で、道徳的な気持ちを育てる環境や援助の工夫をしていきたい。

●教師は保護者に幼児の姿や育ちを「クラスだより」を通して毎日の送迎の時に伝え、共に幼児の育ちを考え合いながら幼児に豊かなかわりをすることが大切である。今後も連携を密にしていきたい。



# 各教科等と関連を持たせた指導

草津市立渋川小学校 <http://www.shibukawa-p.sk.ed.jp/>

## 研究主題

### 豊かな心を持ち、友だちや地域とつながり、 よりよく生きようとするたくましい児童の育成

各教科や特別活動、総合的な学習の時間等で行われる体験活動と道徳の内容項目とを関連付けることにより、道徳の時間の価値の補充、深化、統合を目指すとともに、「自己肯定感」の育成をめざす。

#### 取組①

##### 5年 総合的な学習の時間 「滋賀の郷土料理学習」



地元の実の梅を取りに行き、地域の方に教えてもらう梅干しを作る体験で地域の方と交流し、地域に愛着を持つようになった。

#### 道徳の授業と環境教育を関連させた指導

全学年で、人・ものとのかわりが深まる活動を設定し、その活動の中にある道徳的価値を教師が意識して取り組んだ。

##### 5年 道徳の学習 「ひとふみ十年」

郷土の文化や自然をいつくしむ心情を育てる。

##### 4年 道徳の学習 「アゲハがたんじょうした」

自然や動植物を大切にすることを育てる。

#### 子どもの変容

地域の方との交流により地域に親しみを感じるようになり、自分と地域を関連つけて考えられるようになった。

##### 4年 総合的な学習の時間 「渋川探検隊」



琵琶湖に飛来するコハクチョウの話聞き、琵琶湖の環境と動植物の関係について考えた。

#### 取組②

##### 2～6年 朝の学びの時間 「ありがとう作文」



毎週金曜日、1週間を振り返って、親切にされたり感謝したりしていることを綴っている。

#### 道徳の授業と日常的な取組と関連させた指導

定期的に、自分の生活を振り返る場面を設定することで、道徳の授業で学んだことを実践したり、人とのつながりを意識したりできるように取り組んだ。

##### 4年 道徳の学習 「お世話になってます!」

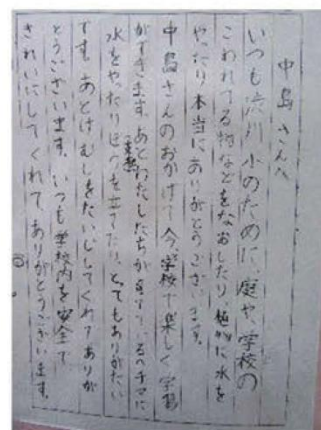
多くの人々に支えられて生活していることに気づき、感謝しようとする態度を養う。

#### 道徳の授業の工夫

- ・導入や終末で、日常生活を想起させる一助とする。
- ・児童理解に努める手立てとする。

#### 子どもの変容

日頃から、尊敬と感謝の気持ちを持つようになり、「ありがとう」の気持ちを言葉で伝えられるようになった。



友だちや日頃お世話になっている地域の方、家族、学校の先生など、様々な人へ向けた感謝の気持ちを綴っている。

## 成果と課題

- 道徳の時間と教科等の教育活動との関連を年間指導計画の別業に明確に示すことで、教師が日々の教育活動に道徳的な価値を意識して取り組めるようになった。「自己肯定感」を醸成するための工夫が、各教科等での学習活動の中でも取り入れられるようになり、子どもたちの学習への意欲も高まりつつある。
- 各教科等で行っている体験活動を、子どもたち自身が、自分にとってどんな高まりがあったかという視点で振り返り、各々が道徳的な価値を見出すことができるように深めていく。

# 道徳教育推進教師を中心とした指導体制の充実

多賀町立多賀小学校 〈<http://tagacho8123.ec-net.jp/>〉

## 研究主題

### 自ら豊かな心を求め、よりよく生きることができる子どもの育成

～考え、議論し自身を振り返ることで自己の生き方についての考えを深め、  
自他を大切にすることを育む道徳教育の充実とその評価～

#### 取組①

##### ○校内の組織を3部会に分けて構成

- ・ 授業考察部会  
子どもの意見を引き出す工夫
- ・ 価値を深める部会  
ワークシートの工夫、評価の考察
- ・ 学習環境部会  
学校の道徳教育の発信  
ゲストティーチャーを活用した授業づくり  
※研究授業毎のテーマは、各部会から提案



児童に問いかける  
廊下の掲示物。



日頃お世話になっている  
ボランティアの方を  
ゲストティーチャーとして  
お招きしました。

#### 取組②

##### ○「行事」の目標の一つに道徳的価値を位置づける ことによる教員への意識化。 (3学期よりキャリア教育の目標も併記)

※記載例

- ・ 避難訓練・・・善悪の判断、自律、自由と責任、生命の尊さ
- ・ 終業式・・・よりよい学校生活、集団生活の充実、節度、節制
- ・ 給食感謝週間・・・感謝、勤労、公共の精神

#### 取組③

##### ○研修の充実

- ・ 先進地視察を複数回行い、夏季研修等で町内教職員に伝達。
- ・ 校内研修を充実し、研究授業を7回実施。うち4回は、外部講師を招聘。
- ・ 校内研究協議がマンネリ化しないように、協議テーマ・協議メンバーを変更して活性化。

※研究テーマ例

- ・ 価値理解が深まる発問であったか。
- ・ 考える時間が適切であったか。
- ・ 自分のこととして考え、議論するためにワークシートは適切であったか。
- ・ 授業の仕掛けや工夫が、児童の考えを深めることに効果的であったか。
- ・ ゲストティーチャーの活用が、効果的な学びに繋がったか。
- ・ 展開後段が、自己の生き方を考え表現する時間であったか。

グループ別の協議



## 成果と課題

- 学校教育目標達成のために、教員一人ひとりがアイデアを持ち寄り、協議し、研究を創造している。
- 道徳教育推進教師は3部会の総括や連絡調整等を行い、授業づくり・学級づくりに大きく寄与し、コーディネーターとしての役割を果たした。
- 児童の振り返りを生かした評価のあり方について、さらに研修が必要である。

# ねらいに応じた多様な指導方法の工夫

湖南省立菩提寺小学校 〈<http://www.edu-konan.jp/bodaiji-el/>〉

## 研究主題

### 豊かな心を持ち、自己の生き方について考えることができる子どもの育成 ～一人ひとりの児童が自分事として向き合う道徳学習を通して～

思わず学びたいくなるような授業づくりをすることによって、子どもたちは、道徳的な価値についてより主体的に学び、自分のこととして考えることができるであろう。さらに、「授業の湖南省スタイル」をふまえ、思いの伝え合いや受け止め合いを充実させることによって、自分自身を見つめ、よさに気づき、自己の生き方について多面的、多角的に考えることができるであろうと考えた。

## 取組①

### 伝え合い受け止めあう

- ◆書くことで自分の考えを持つ  
「授業の湖南省スタイル」その2
- ◆ペアやグループでの交流  
「授業の湖南省スタイル」その3
- ◆多様な表現活動  
話す、書く、役割演技するなど



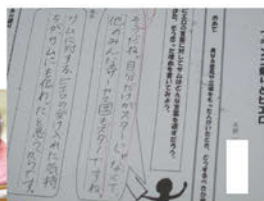
教師と役割演技



ペアで交流する

### 授業の「湖南省スタイル」

- その1 本時の「めあて」を自覚する
- その2 課題に対する自分の考えを書く
- その3 それぞれの考えを交流する
- その4 めあてに応じた「まとめ」をする
- その5 学習を「ふりかえる」(学んだことを自覚する)



自分の考えを書く

## 取組②

### 自分事として立ち返る

- ◆日常における「ふりかえりタイム」  
道徳の授業時間にとどまらず、その後の1週間の中で、帰りの会や日記などを使い、道徳で学んだことに関わって自分をふりかえる時間をとる。
- ◆授業の中での「自分タイム」  
授業の中で教材から離れて、これまでの自分をふり返ったり、自分がどうするかを考えたりする時間（自分タイム）を十分につくる。（展開後段の充実）
- ◆切り返しの発問  
子どもたちの意見が十分出た後に教師が切り返したり、ねらいにせまる問い返しをしたりしながら「自分ならどうするか」をより深く考えられるようにする。

## 取組③

### 児童の変容をみとる

- ◆思考ツールの利用  
ネームプレートや思考チャートなどを利用して児童が意思表示をする。「思考の見える化」を図る。



「思考の見える化」の例

## 成果と課題

- 教員全員で「特別の教科 道徳」の授業改善に取り組むことによって、教員の道徳の授業に対する意識が変わってきた。
- 湖南省スタイルの「道徳科」の形が定着してきた。めあてを示し、授業の流れを明示し、どの子どもにも分かりやすい授業をつくるのが、自分事として考える一つの手立てにもなることが分かった。
- 授業の展開後段に時間をかけるためにはどのような工夫ができるかを考え、対話し合う必然性のある主発問とはどのようなものかを考えたい。さらに、他教科等との関連を図り、子どもたちの道徳的実践力の向上をめざしたい。

# ねらいに応じた多様な指導方法の工夫

多賀町立多賀中学校 <<http://taga210.ec-net.jp/>>

## 研究主題

### 道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育て、 よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う教育の推進

～「特別の教科 道徳」を要とした道徳教育の推進～

生徒には、今まで道徳の授業等で指導した内容が短期的には意識化されるが、それぞれの考えや思いの交流や行動に表すような習慣には結びつかないことが多かった。そこで、主体的に判断・行動し、他者とよりよく生きる力を育てるために、考え議論する道徳をめざし、授業力の向上、教材の開発を図るために本年度の研究を進めた。

## 取組①

### 教材・教具・話し合い活動の工夫について ～授業実践より～

#### ◆心情円盤の活用

「明かりの下の燭台」の中で、マネージャーになることを受け入れるかどうかの判断、「二通の手紙」において主人公の気持ちに共感できるかどうかについて考える場面で心情円盤を用いた。心の内面を表すことが容易であり、自他の気持ちの細やかな心情の揺れ動きに気づくことや、仲間の気持ちを瞬時に読み取ることが可能であった。



心情円盤を使つての授業

#### ◆ねらいに迫るための教材提示

「ドナーカード」で生命尊重をねらいとした授業を行う際に、多角的に命を見つめるための補助資料として臓器提供者の家族の手紙と臓器移植手術経験者の手紙を用いた。

#### ◆話し合い活動の種類 ※クラスの状況に応じて様々な形態で話し合い活動を行った。

コの字型一活発に意見が出やすい雰囲気をつくることができた。また、意見に対しての反応も早くなるため、授業の流れがスムーズであった。生徒同士が表情を見やすい状況で意見交換を行うため、安心感があり距離感が近くなった。(4・5月やどどん話を出したい時などに用いた。)

少人数班一道徳では4人を基準として班編成を行った。1人の話す時間が増えることで、質問や意見交流の場面を充実させることができた。(より考えを深めさせたい時や、他者の意見を聞き、じっくり考えをまとめさせたいときに用いた。)

## 取組②

### 教師の資質向上のための取り組み。

- (1) 道徳教材『二通の手紙』から生徒が話し合い活動をしやすいように中心発問を工夫し考えた。
- (2) 道徳教材『木箱の中の鉛筆たち』『旗』を使った模擬授業から、授業構成の方法や、指導の展開方法などを学ぶことで、生徒の意見を中心発問場面で、より多くの意見を出し合えるように考えた。
- (3) 授業づくりや発問づくりの中で、大切にしたいこと等を講演より学び、ねらいとする価値に迫るために、授業実践に取り入れた。

## 成果と課題

- 教師が、研修や研究協議を通じて、授業の組み立て方の基礎を学んだ。道徳的価値に迫るため、中心発問に着目し、授業を行うことができた。
- 道徳的価値に迫るために、教材教具を工夫してきたが、生徒に有効であったかどうか振り返ることや、さらに良い手段がないかどうかを検討することに関しては課題が残る。

# 生徒の発達や個に応じた指導の工夫

湖南市立日枝中学校 <<http://www.edu-konan.jp/hie-jh/>>

## 研究主題

### 豊かな心を持ち、力強く生きる生徒の育成

～学び合いを通して豊かな関わりや自己の生き方を考え、道徳的実践力を育成する～

本校では、学び合いで自分の思いを伝えたり相手の考えを聞いたりする授業の研究に取り組んできた。その活動を通して、生徒一人一人が互いを認める態度を身につけるとともに、互いの違いを尊重し合える集団づくりを行いたいと考える。また、その中で自他の良さに気づき、「自尊心」を高めることにより、豊かな心や力強く生きる生徒を育成することをねらいとして研究を推進した。

## 取組①

授業実践の充実1 —— 個々の子どもどうしのつながりをつくる

### ◆学び合いによる授業展開

コの字型と4人グループでの交流により、「自分の考えを伝える」「相手の考えを聞く」力を育てる。



コの字型で授業がスタート



4人グループで意見交流

## 取組②

授業実践の充実2 —— 登場人物の関係や教材の流れ・場面をつかみやすくする



場面絵で板書もスッキリ

### ◆場面絵の活用

発問を中心とした場面絵により教材の内容を視覚的にとらえやすくする。主体的に考える態度を育て、個々の意欲を高める。

### ◆教材の整理棚の設置

場面絵と発問カードなどを、内容項目ごとに収納し、学年で活用する。いつでも見られるように職員室内に設置。



地域の方がつくってくださった整理棚

## 取組③

道徳教育と他の教育活動との連携

### ◆縦割り団を生かした全校での集団づくり

体育祭と文化祭では縦割りの団を生かして仲間づくり



団リーダーが練習をリード

暑いけれど、もうちょっと声を出して!

2学年合同での合唱練習



3年生の声は美しいな。

## 成果と課題



「道徳の時間」の勉強は好き

- 資料や場面絵の準備・指導案の作成を進めることで、教材研究等の道徳教育に取り組む教員の意識が高まった。
- コの字や4人グループにより、活発な意見交流ができた。
- 実際の生活に道徳の授業が生かされていないことがあり、生活になく工夫が必要である。

# 生徒の内面的な自覚を促す指導方法の工夫

草津市立老上中学校 <<http://www.oikami-j.skc.ed.jp/>>

## 研究主題

### よりよい生き方をめざし、「考動」する生徒の育成

～ともに考え、内からの高まりをめざす道德教育の推進～

開校以来38年間、人権同和教育の推進を中心に据え保幼小中高・会館・地域と連携しながら「心豊かな生徒の育成をめざして取組を進めてきた本校において、「心の教育」の裾野をさらに広げるため、生徒の内面的な自覚を促す指導方法の工夫と教育活動全体を通じた道德教育を推進し、生徒の道德的実践力や道德性の育成を図った。

## 取組①

### 授業実践の充実

道德的価値の内面的自覚を深める学習を展開するために、道德的価値を追求させたり、多様な考えと触れたりする中で、自己の生き方につなぐ授業を実践した。

#### (1) 道德的価値を追求させる工夫

**教材提示** 教材の内容を捉えやすいように、電子黒板を活用して提示し、自分ごととして考えさせる手立てとした。

**発問** ねらいとする道德的価値についてどこまで深めるかを明確にし、教材のどの場面を考えさせたいかをはっきりさせた。登場人物に共感しながら自分との関わりの中で気持ちを考えたり、道德的価値について考えたりできるようにした。また、想定される生徒の反応一つひとつについて、道德的価値をふまえ、何を考えさせたいのかを明確にしながり返しを行った。

#### (2) 多様な他者の考えに触れるための場の工夫

**板書** 生徒の発言は端的に書きとめ、考えさせたいことが明確にわかり全体がイメージできるような板書を心がけた。

**話し合い** 話し合いをし、自分と異なる考えや感じ方をする他者の存在に気付くことができるような場を設定した。個人ワークでまず自分が課題に向き合い、グループ内で交流した。その際、なぜそう思うか、他の人の意見を聞いてどう思ったかなど、互いの意見に学び合いながら考えを深められる話し合いのルールを提示した。



生徒の多様な考えを視覚化



グループ活動の充実



カリキュラム表の掲示

## 取組②

### 教育活動全体を通じた道德教育の推進

様々な教育活動と「道德の時間」を関連させることによって、道德的価値の内面的自覚が深まり、確かな道德的実践力が身に付いていくと考え、道德教育を軸に学校全体のカリキュラムマネジメントを充実させた。

#### 教科横断的なカリキュラム表の作成

教科横断的に指導を行えるように重点項目については、教職員が目にとまる場所に掲示

#### 地域連携による活動を通じて道德的価値の内面的な高まりをめざす活動

- ・ いじめ0プロジェクト ・ 琵琶湖畔での環境体験学習 ・ 職場体験学習
- ・ ゴミ0活動、クリーン作戦などのボランティア体験
- ・ 地元のサークル活動の方々に講師を招いて手打ちうどんづくり体験
- ・ 学区の青少年育成学区民会議と共催しての道德教育講演会



いじめ0プロジェクト全校集会

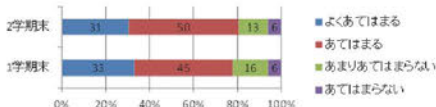
## 子どもの変容

- ・ 道德の時間の話し合い活動の中で、どの生徒も自分の考えを発言することができ、また他の人の意見を聞いて、道德的価値と向き合って深く考える姿が見られるようになってきた。
- ・ 生徒会活動において、自分たちの課題に真剣に向き合い改善に向けて行動する場面が増えてきた。

## 成果と課題

(生徒アンケートより)

設問：道德の授業では感動したり  
いろいろな考えに気づかされる



○生徒の実態をふまえ指導方法について試行錯誤を繰り返す中で、生徒自身に考え合う雰囲気が増えてきた。また、道德の授業に臨む姿勢や1時間の振り返りの内容から生徒が生き方について学び合おうとする意識の高まりがうかがえる。

●道德的価値に関わって人間としての弱さを出し合いながら生徒同士が主体的に考え合う雰囲気をつくっていくため、生徒のつぶやきを大切に切り返し発問を工夫するなどの改善が一層必要である。

# 生徒が人間としての在り方生き方を主体的に探究する指導の工夫

滋賀県立大津高等学校 <<http://www.ohtsu-h.shiga-ec.ed.jp>>

## 研究主題 人間としての在り方生き方を育む教育の深化をめざして

・これまでの経過 平成23～25年度 道徳教育総合支援事業・平成26～29年度 道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業推進校

学校教育を通じた仲間づくりや、人権学習、総合的な学習の時間等での体験的な学習を通して、人としての在り方生き方を考えさせる取組に力を入れ、生徒の道徳的実践力や道徳性の育成を図った。

・今年度について

学識経験者からの指導助言を仰ぎ、校内「道徳教育推進研修会」の推進と取組の深化を目指す。個々の取組を発展させるとともに、再構築したシラバスをもとに道徳的視点を含んだ校内授業研究、公開授業を全教科で実施した。

### 取組① 授業研究の実施

H27年度はシラバスの再構築、H28年度は全教科で校内授業研究、今年度は公開授業を実施した。

### 取組② 他者とのより良い関係の構築を目指す活動

#### ①1分間スピーチ(1・3年)

1年は「高校生活をどう充実させるか」、3年は「自分の進路についての思い」について自分の考えや思いを本音で語り自分を理解してもらう機会を設ける。このことにより、相手の思いを汲み取り、自分の考えを的確に伝える難しさに気づかせた。

#### ②コミュニケーションスキルアップ講座(1年)

他人の思いを汲み取り、自己の考えを伝えるスキルを学んだ。

#### ③人権学習

異なる価値観があることを知り、自分とは違う考え方も尊重し、自己の考えを深めていく生徒の育成を目指した。

##### 1年：障がい者問題(フィールドワーク：15分科会)

クラス内で各自の体験活動と学習内容を発表する事後学習を実施し、交流と振り返りの機会をもち充実することができた。

「今回の体験活動や各班の発表を通して、人が人を思いやる気持ちの大切さを学ぶことができた。」

(生徒の感想より)

##### 2年：在日コリアン問題(サムルノリ演奏と講演会)

「今の若い世代が差別のない対等な関係を築いていきたいと思った。」(生徒の感想より)

##### 3年：部落問題学習(講演会と事前事後学習)

「部落差別だけでなく身近な差別からなくしていくことが課題だと思う。」(生徒の感想より)

### 取組③ 社会の一員としての自覚を持ち、自己実現を目指す実践

#### ①主権者教育

「私たちが拓く日本の未来」をテーマに特別講座を開催し、有権者として求められる力を身につけさせた。



「自分の1票に責任を持たなければならないと思った。」  
(生徒の感想より)

#### ②進路学習

・自己理解レポートの作成 ・上級学校への校外学習  
自分の適性や自分の力を発揮できる場を見つけさせた。

#### 取組④ 地域貢献・交流活動の実施

学校家庭クラブ活動・文化部への依頼活動

・大津市100円市に出店(3年：バラのマグネット販売)

・Ohtu collection(イベントのプロデュースと出演)

地元商店街に人通りをふやしにぎわいを生み出すため、オープニングダンスパフォーマンスやファッションショー(3年生が各自でデザインし制作したドレスを披露)、軽音楽部によるライブを実施し、好評を得た。

・坊主めぐり大会(地域イベントで邦楽部による琴の演奏)

・ひらのまちづくりフォーラム(研究活動発表と交流)

家庭クラブの研究活動を発表し、オリジナル製法の米粉を使ったクッキー・タルトの試食と交流会の開催。



〈大津市100円市の出店〉



〈ファッションショーの様子〉

#### 取組⑤ 誰もが輝ける場所のある集団づくり

学園祭のCIA(マスゲーム)では、クラス全員で一つの表現を作り上げる喜びを体験できた。



〈CIAの様子〉

### 成果と課題

○様々な教育活動を道徳教育の視点で整理し、教育活動全体の中に位置づけ工夫改善することで、道徳教育が着実に定着している。

○学識経験者を招いた「道徳教育推進研修会」を開催し、課題や今後の方向性の確認ができた。

●研修会での指導助言をもとに、授業研究や教員研修をさらに活発に行い、道徳を意識した学校づくりを推進する。

# 「自分への思いを深める『特別の教科 道徳』の在り方」

## ～ 話し合いの充実を通して ～

滋賀県小・中学校教育研究会道徳部会

平成30・31年度より、小学校・中学校で『特別の教科 道徳』が始まる。この時機をとらえ、これまでの道徳の時間で大切にしてきた不易の部分と、新しく取り組むべきことを整理し、誰もが道徳科の授業に抵抗なく向かえるようにしなければならない。そこで、今年度道徳部会では、話し合いの充実を通して、自分への思いを深める『特別の教科 道徳』の在り方について探ってきた。他者と対話したり、協働したりしながら、物事を多面的・多角的に考える学習を通して、一人ひとりが価値理解と同時に人間理解や他者理解を深め、さらに自分で考えを深め、判断し、表現する力などを育てていくにはどうすればよいか、また、児童生徒が多様な感じ方や考え方に接するためには、どのような展開を工夫すればよいかを検討してきた。以下はその事例である。

1. 主題名 誠実な姿
2. 資料名 『見送られた二十球 -松井秀喜-』 出典：6年生の道徳〔文溪堂〕
3. ねらい 誠実に、明るい心で楽しく生活しようとする態度を育成する。1-(4)
4. 主題設定の理由

青字は発問、赤字は効果的な例、緑字は授業者の心得・授業のポイントを示しています。

**[ねらいとする価値]** **ねらいとする価値のよさを自分の言葉で伝える。**

誠実に生きるとは、自分自身に対して誠実であることにつきる。自分自身に向き合い、自分自身の中で折り合いが付き、明るい気持ちで生活ができれば、よしとすべきと考える。誠実ということの真の意味をとらえようとする、自分に「それでいいのか？」と、繰り返し、繰り返し問わなければ、自分を納得させる答えを得られないからである。自分を納得させる答えを得るためには、いくつもの壁を乗り越えていく意地のようなものを伴うものである。

「意地を張らずに、肩の力を抜いて…」とよく言われるものの、強い意志（意地）をもち、プライドをもって生きていくことこそ、誠実な生き方につながると考える。自分の行いに信念をもち、壁を乗り越えて得た心地よさこそ、明るい気持ちで生活していくための礎となることに気づけるよう本時を設定した。

**[児童の実態]** **ねらいというフィルターを通して捉えた児童の姿を描ききる。**

日々の学校生活を、晴れ渡る青空のようなすがすがしい気持ちで送っている子が、何人いるだろうか。友だちに非難されはしないだろうか、馬鹿にされはしないだろうか、笑われはしないだろうか、不安を伴って暮らしている子が少なくないかも知れない。自分はこうしたいのに、人から笑われるかもしれないから、したくないふりをして、ごまかしてしまう。自分自身をもごまかしてしまうことの繰り返しによって、自分自身を見失ってしまう児童の姿が見られる。

しかし、このような現実に満足している子ばかりでは、決してない。「こんな自分ではいけない」と、なまけたり、ごまかしたりしようとする自分自身と真正面から向き合い、真正直に生きたい、誠実に生きたいと願って努力する自分を描き、大きな壁の前に、その狭間でゆれている姿が一方で見られる。このことは、まさに6年生の子どもたちが、日々直面していたり、今後必ず直面したりするであろう課題と言える。安易に自分自身をごまかすのではなく、真摯に自分自身に問いかけ、判断して生きていく姿こそ素敵なのである。折り合いをつけるにしても、それが自分自身を納得させられるものであってほしい。自分自身を見失わないために、また、しっかりと自分自身を築き上げるために、誠実とは…、真心とは…と、立ち止まって自分自身に問い返してほしいと願っている。本学習は、そのきっかけにしたいと考え、設定するものである。

**[資料について]**

人間として、常に誰に対しても誠実な姿勢を貫き通す松井選手。その生き方に触れることで、誠実に生きるとはどういうことかを考えられる資料である。

資料には、松井選手の生き方を伝えるエピソードが2つ示されている。1つ目は、中学時代の野球部コーチ・高桑充裕に、「バットを投げ捨て、敬遠したピッチャーをにらみつけながら一塁へ向かったことを、道具を粗末にするものに野球をやる資格はない。相手投手をにらみ、ふてくされたおまえの態度のほうがよっぽどマナー違反だ」と指摘されたこと。2つ目は、3年生の夏の甲子園大会で、5連続敬遠をされ、大舞台上で、バットを一度も振ることなく、20球を見送り、静かにバットを置き、相手投手を責めることをしなかったことである。

中学時代の体験により、誇り高く自信をもって、真面目に前向きに受け止めた生活をするのが、自己を向上させることにつながるという信念をもって生きている姿を鏡にして、自分を映し見つめることができるかである。中学時代の体験から学んだ姿、5連続敬遠をされても、静かにバットを置いて一塁ベースに走って行った松井選手の心に迫り、誠実に生きる姿について、ともに考えていきたい。〔教師もともに考えるという姿勢が大切〕



## 5. 本時の展開

	学習活動と主な発問	予想される子どもの思い	教師の支援
導入	1. 実際場面の映像を見せ、資料への導入とする。 ○お話の日の映像です。	・映像を見る。	・資料への導入としてYouTube【松井秀喜】5打席連続敬遠後のインタビュー〔38秒〕を見せる。
展開前段	2. 資料『見送られた二十球-松井秀喜-』を読んで語り合う。 ①試合後コーチから注意され、「自分がまちがっていました。」と言ってコーチにあやまる松井さんは、心の中でどんなことを考えているでしょう。 ・コーチの注意に納得していると思う人はパー、納得していないと思う人はグー、どちらでもないと思う人はチョキで、自分の考えを友だちに知らせよう。 ・友だちの考えを参考にして、話し合っって自分の考えをまとめましょう。  ②バッターボックスに立つ松井さんは、どんな気持ちでしょう。  ③甲子園での最後のバッターボックスでも敬遠され、バットを静かに置いて、ひたすら前を向いて一塁に走っている松井さんは、何を考えているでしょう。  そのときの松井さんの気持ちに迫れるよう、発問は全て現在形で問うようにする。	・ どうしてあんなにしかられなければならないんだ。 ・ コーチは何が言いたいんだ。 ・ 敬遠なんてひきょうだ。正々堂々と勝負したい。 ・ たしかにバットはほくにとって大事な野球の道具だ。 ・ 敬遠もルールにちがいない。 ・ 相手は勝つために、敬遠という作戦をとった。ルール違反をしたのではない。ふてくされてはいけない。 ・ もっと、冷静にならなければ強くなれない。自分がまちがっていた。 ・ バットはほくにとっては命だ。 ・ 一球も見のがさないぞ。 ・ 勝負の球を投げてこい。 ・ ホームランにしてみせる。 ・ 今度こそ、ストライクゾーンに投げてこい。 ・ 一度もバットをふることができなかった。 ・ 最後の甲子園でホームランを打てなかった。くやしいが、堂々と走ろう。 ・ 勝負してほしかった。 ・ 相手のピッチャーだって、監督に言われた作戦に従ったんだ。 ・ ルールだから仕方がない。 ・ あの時、心に決めたんだ。ふてくされちゃいけない。まっすぐに堂々と走るんだ。	・ 松井さんの思い・考えに迫れるよう、十分に時間をとってフリーに話し合う場を設定する。 ・ 同じ考えの人や違う考えの人を意識して、必然性のある話し合いができるよう、ハンドサインを取り入れる。 ・ 様々な思いをよしとして受け止めつつ、自分を納得させた松井さんの思い・考えを板書にまとめる。  ・ ホームランにかける松井さんの思いに迫れるよう、 <b>鋭い視線でピッチャーを見つめる写真</b> を提示しながら発問する。  ・ 最後の活躍の場でも、中学時代に心に誓い、誠実であり続けようと努力している松井さんに迫れるよう、 <b>バットを静かに置いた、ひたすら前を向いて一塁ベースへ走っていったことをフラッシュカード</b> で提示する。 ・ <b>バットを用意し、静かにバットを置いて走っていったことを動作化</b> で示す。
展開後段	3. 自分の生活を振り返る。 ○誠実に行動できてよかったと思うことや、しようと思ったけれどできなかったことを紹介しましょう。	・ 運動会で恥ずかしかったけれど、思い切り踊れてスッキリした。 ・ 嘘をついていたことを正直に言えてスッキリした。	・ 可能な限り、子どもたちの誠実に係わる姿を把握しておき、意図的指名をする。
終末	4. 教師の説話を聞く。 ○松井選手を指導した星陵高校の山下智茂監督の言葉「心変われば行動かわる」「行動変われば習慣変わる」「習慣変われば人格変わる」「人格変われば運命変わる」や「花よりも花を咲かせる土となれ」を松井選手が心に秘めて生きてきたことを紹介する。 <b>学習後、他の言葉を含め、道徳コーナーに掲示する。</b>		

## 6. 実践のポイント

～話し合いの充実を通して～を窓口に研究に取り組み、発問①の教師の支援のように、考えが同じなのか、違うのを見えるようにして**必然性のある話し合いの場**を設けること。考えを交流し合う中で、**多様な考えに出会い、自分の考えを深め整理していく過程**を大切にしたいと考える。教師もその話し合いに参加し、**ともに考える過程**を大切に**積み重ねる**ことで、話し合いの充実を図り思いを深める道徳科をめざしたいと考える。

# 学校・家庭・地域社会で豊かな心を育む (道徳教育推進協議会)

道徳で学ぶことは、実践して初めて生きることであると思います。地域と学校とが連携することで、活性化すると思います。中学生チャレンジウィークなどが、道徳を学ぶ機会となっているのではないのでしょうか。

本時で扱う道徳的価値を指導者が理解して、子どもと一緒にやって授業をする。黒板の前から離れて、子どもと語り合う道徳の授業を創造していきたいと思います。

「道徳を学ぶ」ということを教師も楽しみつつ、夢をもって子どもと関わっていくことが大切だと感じます。

この協議会で、様々な地域・校種の取組を知ることができ、視野が広がりました。この協議会こそ、「多面的・多角的」でした。子どもたちが、そのように感じられる授業をすることが大切だと実感しました。

まずは、児童理解。子どもたちが今、何を考え、何を感じているのか、どのようなものの見方をしているのかということがわかるよう、一人ひとりをしっかり見ていくことが大切です。道徳を研究することは、その突破口になるように思います。

母親も一緒に学ぶ機会があれば、家庭で子どもと話せるきっかけになると思う。仕事、家事、育児と大変な中、参観等の機会を設けていただくことがありがたいと感じています。

道徳を研究することで、授業が変わる、学校が変わる。何も特別なことではなく、どの学校でも取り組める実践をこの協議会から広めていくことができればと思います。

この協議会で、様々な地域・校種の取組を知ることができ、視野が広がりました。この協議会こそ、「多面的・多角的」でした。子どもたちが、そのように感じられる授業をすることが大切だと実感しました。

## 委員の皆さんからの発言



平成29年度 滋賀県道徳教育推進協議会委員一覧 (敬称略)

	氏 名	所 属 等
会 長	押谷 由夫	武庫川女子大学教育研究所教授
副会長	森 美穂	滋賀県立大津高等学校校長
委 員	村田 健二	株式会社村田自動車工業所代表取締役社長
委 員	安達 みのり	「子育て応援CHEERS STATION」代表
委 員	港 富士子	滋賀県PTA連絡協議会副会長
委 員	福地 順子	近江八幡市立八幡幼稚園園長 滋賀県国公立幼稚園・こども園長会副会長
委 員	久保川 雅子	多賀町教育委員会事務局学校教育課課長
委 員	野瀬 めぐみ	草津市教育委員会事務局学校教育課専門員
委 員	吉村 里佳	湖南市教育委員会事務局学校教育課指導主事
委 員	今村 増弘	東近江市立愛東南小学校校長 滋賀県小学校教育研究会道徳部会長
委 員	辻本 長一	草津市立老上中学校校長

## 教科化に向けた学校の取組

人間としてのよりよい生き方を考える  
— 人格の基盤としての道徳性の育成 —

## 指導体制の確立

校長のリーダーシップのもと、道徳教育推進教師を中心とした指導体制を確立

学校の道徳教育の目標・重点内容項目の明確化

道徳教育全体計画

全体計画別葉

道徳科の年間指導計画

## 「考え・議論する」道徳へ

## 「考える」とは・・・

- ・自分とのかかわりで考える
- ・主体的に考える
- ・様々な視点や立場から考える

## 「議論する」とは・・・

- ・多様な考え方・感じ方と出会い、交流する
- ・本音で語り合う
- ・他者と自分の考えを比較したり、関連付けたりする

## 本時の指導内容を理解する（価値観）

学習指導要領に基づき、ねらいとする道徳的価値について、明確な考えをもつ

## 子どもの実態を明らかにする（児童・生徒観）

ねらいとする道徳的価値に関わる子どもの実態(よさや課題)を基に、本時で子どもたちに考えさせたいことを明確にする

## 教材の活用方法を考える（教材観）

- 指導の意図を明確にした教材活用、学習展開構想
- ・多様な学習展開の工夫により、質の高い学びをめざす
- ・展開（中心発問、その他の発問の設定）を構想する
- ・効果的な導入・終末を構想する

## 問題意識をもち、考えを深める

一人ひとりの感じ方や考え方が生かされ、多面的に思考し、学び合うことのできる方法を工夫する

## 子どもの学びをみとる（評価）

- 学習状況や道徳性に係る成長の様子を把握する
- ・一面的な見方から多面的な見方へと発展させているか（例）自分と違う意見や立場を理解しようとしている
- ・道徳的価値の理解を自分との関わりの中で深めているか（例）自らの生活や考えを見直そうとしている

## 問題解決的な学習

- 教材や日常生活から道徳的な課題を見つけ、多面的に検討する
- 自分なりの解決策を選択・決定する中で、実現したい道徳的価値への理解を深める

## 道徳的行為に関する体験的な学習

- 役割演技や道徳的行為を疑似体験すること、道徳的価値の意味や実現するために大切なこと等について多面的に考える

資料提示の工夫（紙芝居、電子黒板等）  
教師の説話、人材活用(ゲストティーチャー)など

切り返し発問 意図的指名 キーワード  
役割演技 劇化 動作化 疑似体験 話し合い  
座席配置 板書の工夫 ワークシートの活用など

- 1単位時間の授業の中で（発言、行動、記述、子どもの自己評価等からみとる）
- 年間35単位時間の授業という長い期間の中で（子どもの学習の過程や成果などの記録を計画的に集積）
- ・個々の内容項目ごとではなく大きくくりなまとまりで
- ・他者との比較でなく、個人内評価を記述式で



カリキュラム・マネジメントの観点からの道徳教育全体計画及び別葉、道徳科の年間指導計画の作成、質の高い多様な指導方法や評価の在り方の研究等、校長のリーダーシップのもと、道徳教育推進教師を中心とした組織的な取組の推進が求められています。

# 道徳教育の全体計画の別葉



各学校の道徳教育の全体計画には、学校や地域の実態に応じた重点目標が示されています。その重点目標や各学年の重点項目と学校の教育活動がどのように関連し、展開されていくのか、別葉において示すことが大切です。目標を明確に意識して、一貫した指導をすることにより、より重点的、具体的な指導を行うことができます。

## 小学校5年生の例

下の別葉は、各教科等における道徳教育に関する内容及び時期を示した例です。例に示した学校の重点目標に関わる内容項目は、思いやり・親切と感謝です。

各教科等	4月	5月	6月	7月
主な学校行事	分団会 (B感謝)	運動会 (B感謝) 避難訓練 (C規則の尊重)	思いやりにかかわる指導	
総合的な学習の時間との関連	身近な環境を守ろう (F. S) (D自然愛護) 5・5交流 (B思いやり・親切) 米作りにチャレンジ (D自然愛護、C伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度)			
特別活動	係を決めよう クラスのめあて (Cよりよい学校生活) (A努力と強い意志)	話し合い活動 (B友情) (Cよりよい学校生活)		夏休みに向けて (A節度・節制)
国語	登場人物相互の関わりを捉えて、感想を伝え合う (B友情)	感謝にかかわる指導		読書に親しむ (C伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度)
社会	国土の自然などの様子 (C伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度) (D自然愛護)		日本の農業 (B感謝) (C伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度) (D自然愛護)	
算数	道徳教育の重点目標のポイントを明確にして、カリキュラム・マネジメントの視点で道徳の時間以外の指導の内容及び時期を検討します。			
理科	植物の発芽・成長・結実 生命のたんじょう (D生命の尊重)			
音楽	童謡に親しむ (C伝統と文化の尊重、 国や郷土を愛する態度)			
図画工作				
家庭	家庭の仕事に取り組む (B感謝) (C家族愛)			
体育	短距離走・リレー・ハードル走・表現 (A希望と勇気、努力と強い意志) (B友情・信頼)		水泳 (D生命の尊重)	
保健	まずは、学校の重点内容項目を明確にし、それに関わる指導の内容及び時期を表します。その後、それ以外の内容についても、教科の特質に応じた指導が行われるよう留意し、加えていきます。			

### 全体計画

道徳教育の目標を達成するための方を総合的に示した教育計画

### 別葉

学習指導要領解説 特別の教科 道徳編では、別葉として次の例が示されている。

- ・各教科等における道徳教育にかかわる指導の内容及び時期を整理したもの
  - ・道徳教育にかかわる体験活動や実践活動の時期等が一覧できるもの
  - ・道徳教育の推進体制や家庭や地域社会等との連携のための活動等が分かるもの
- 各教科の年間計画や教科書などを見ながら、どの教科でいつ指導するのかを検討する。



# 道徳科の評価について

## 道徳性

人間としてよりよく生きようとする人格的特性であり道徳的判断力、道徳的心情、道徳的実践意欲及び態度を諸様相とする内面的資質

このような道徳性が養われたか否かは、容易に判断できるものではない



年間や学期といった一定のまとまりの中で、道徳科の学習における学習状況や道徳性に係る成長の様子を適切に把握し評価することが求められる

## 横断的な評価

○個人の目標に向けた学習状況ごとに横並びにして、突出したところをよさと認める

第1回	第4回	第7回	第10回
第2回	第5回	第8回	第11回
第3回	第6回	第9回	第12回

～でした。

## 縦断的な評価

○学習状況を時間的に縦に並べて、進歩の状況を認める



～なりました。

## 道徳科の授業に対する評価

### 道徳科の学習指導過程に関する評価の観点例

- 道徳科の特質を生かし、道徳的価値の理解を基に自己を見つめられるよう適切に構成されていたか。指導の手立ては適切であったか。
- 発問は、指導の意図に基づいて的確になされていたか。発問に対して子どもが多面的・多角的に考えていたか。子どもの発言などを適切に指導に生かしていたか。
- 子どもの発言を傾聴して受け止めるとともに、発言の背景を推察したり、学級全体に波及させたりしていたか。
- 特に配慮を要する子どもに適切に対応していたか。



道徳科においても、学習評価の妥当性、信頼性等を担保することが重要です。そのためには、評価は個々の教師が個人として行うのではなく、学校として組織的・計画的に行われることが重要となります。

## 滋賀県道徳教材「近江の心」

～先人の「近江の心」を未来へつなぐ～



【小学校版】  
(高学年対象)

## 【読み物教材】

- ・馬方又左衛門 (A 正直、誠実)
- ・この子らを世の光に (B 親切、思いやり)
- ・雨森芳洲と真心のつきあい (C 国際理解、国際親善)
- ・受け継がれる思い～山中万吉～ (C 勤労、公共の精神)
- ・生き物の宝庫・滋賀県 (D 自然愛護)

(平成29年3月発行)



【中学校版】

## 【読み物教材】

- ・埋れ木 (A 希望と勇気、克己と強い意志)
- ・新八と了佐 (B 相互理解、寛容)
- ・近江商人の矜持―初代伊藤忠兵衛― (C 社会参画、公共の精神)
- ・福祉に生きる―一田村一二― (C 公正、公平、社会正義)
- ・琵琶湖とともに (D 自然愛護)

(平成30年3月発行)



- 滋賀県の誇る偉人や自然を題材にした読み物教材を収録
- 「特別の教科 道徳」の内容項目 (A～D) それぞれに対応
- 読み物教材、指導略案、板書計画、ワークシートを掲載、ホームページからダウンロード可能
- 学校、地域の実態に応じて、積極的な活用を期待



道徳科の授業において、主たる教材が教科用図書であることはもちろんですが、道徳教育の特性に鑑みれば、各地域に根差した郷土資料など、多様な教材を併せて活用することが重要です。このことに留意しながら、年間指導計画を作成しましょう。

# 学習指導要領による 道徳教育

## ー推進体制チェックポイント18ー



あなたの学校の推進体制は整っていますか  
18項目で点検して、実践につなげていきましょう

総合到達度 / 18

### 1 道徳教育推進教師を中心とした協力体制

到達度 / 6

道徳教育推進教師は、校長の方針のもと、全体計画や年間指導計画の立案、校内研修の実施、教材の充実・活用、家庭や地域との連携など、全校体制で取り組む道徳教育をコーディネートします。

- ◆学校（校長）の道徳教育の方針が明確に打ち出されている . . . . . Yes・No
- ◆道徳教育推進教師が担当する役割が明確になっている . . . . . Yes・No
- ◆道徳教育に協力して取り組む校内体制がうまく機能している . . . . . Yes・No
- ◆道徳の授業づくりについて気軽に相談できる人がいる . . . . . Yes・No
- ◆道徳の授業や「私たちの道徳」の使い方等の研修会を計画している . . . . . Yes・No
- ◆道徳の全校的な学習参観や道徳教育の情報発信に取り組んでいる . . . . . Yes・No

### 2 活用しやすい全体計画と年間指導計画

到達度 / 6

全体計画には、道徳の内容項目に関連する各教科等の指導の内容及び時期や、家庭や地域社会との連携等も示します。また、内容項目の新設や変更に応じた年間指導計画が必要です。

- ★全体計画に各教科等における道徳教育の「内容及び時期」を示している . . . . . Yes・No
- ★全体計画に家庭や地域社会との連携の方法を示している . . . . . Yes・No
- ★全体計画を見ると学校や学年で重点化を図る指導内容がわかる . . . . . Yes・No
- ★年間指導計画に各学年の全指導内容を重点化して位置付けている . . . . . Yes・No
- ★年間指導計画を見ると道徳の時間の発問がわかる . . . . . Yes・No
- ★情報モラルに関する指導が年間指導計画に位置付けている . . . . . Yes・No

### 3 道徳科を充実させる環境づくり

到達度 / 6

道徳科の指導の配慮事項として、①道徳教育推進教師を中心とした指導体制、②道徳科の特性を生かした計画的・発展的な指導、③児童生徒が主体的に道徳性を養うための指導、④多様な考え方を生かすための言語活動、⑤問題解決的な学習など多様な方法を取り入れた指導、⑥情報モラルと現代的な課題に関する指導、⑦家庭や地域社会との連携による指導 が挙げられています。

- 時数確保のために道徳の時間を月曜日以外に位置付けている . . . . . Yes・No
- 授業研修によって道徳の授業力アップを図っている . . . . . Yes・No
- チーム・ティーチングなどの協力的な指導体制ができている . . . . . Yes・No
- 道徳ノートや道徳ファイルを授業で活用している . . . . . Yes・No
- 学校や学級で道徳コーナーを設けている . . . . . Yes・No
- 道徳の教材や資料の整備・充実を計画的に行っている . . . . . Yes・No

#### 表紙について

題名 「にんじやとたぬきの信楽号」  
(第64回滋賀県教育美術展 特選)

信楽に住む人々や観光でこの街を訪れる人の交通手段となる信楽高原鐵道。

社会科の学習で、様々な困難をこの街の人々と共に乗り越え、今に受け継がれていることを知りました。多くの人に利用してほしいと思います。

甲賀市立信楽小学校 4年  
直村 帆乃佳さん

#### 編集後記

道徳科の目標「自己（人間として）の生き方についての考えを深める学習」を実現するための授業構想。平成29年度、各推進地域、推進校におかれましては、このことを重視し、研究を進めていただきました。道徳授業そのものの充実に努めることはもちろん、学校の教育活動全体を通して行う道徳教育（横のつながり）や、幼児期から小中高の連携（縦のつながり）を重視した実践の成果を、本冊子に掲載しております。

最後に、編集に御協力いただきました皆様方に、心よりお礼申し上げます。

幼小中教育課 指導主事 箕浦 健司



平成29年度道徳教育振興だより  
滋賀の子どもたちにこころの元気を  
教科化に向けた道徳教育の充実

平成30年3月発行

発行：滋賀県教育委員会

〒520-8577

大津市京町四丁目1-1